

「博物館資料保存論—文化財と空気汚染」

佐野千恵, 呂 俊民, 吉田直人, 三浦定俊

B5版, 158ページ, 定価(本体2600円+税)
(株みみずく舎, 2010年6月10日初版第1刷発行)

以前, ドイツで開かれたIndoor Air Quality(IAQ2006) in museums and archivesの学会に参加した。そこで, 日本は, 居住環境の空気質測定需要は多いが, 博物館, 美術館の空気質測定需要は欧州に比べ少ないことを知った。それ以来, 国内の博物館, 美術館内の空気質の管理, さらに, 空気汚染による博物館, 美術館展示物, 文化財等への影響については, 筆者の関心事項となっていた。そんな中, 東海大学関根嘉香先生よりこの一冊をご紹介頂いた。

本書は, 「第1章 文化財と空気汚染」, 「第2章汚染物質の性状とその影響」, 「第3章汚染物の制御」, 「第4章汚染の監視計画」, 「第5章 汚染物質測定手法の実際」, 「第6章汚染対策の実施例」という構成になっている。博物館内装からは, アルデヒド類や, 酢酸, 蟻酸等の有機酸類が, 建材コンクリートからはアンモニアが発生する可能性がある。発生した化学物質により博物館の空気が汚染されると, 展示物や文化財の変色やさび等の原因になるので, 文化財保存のためには, 博物館の展示室に留まらず展示ケース内の空気質管理も重要なことなどが示されている。その内容は筆者の関心事を十分に満たしてくれるものであった。

また, 各章の終わりには, コラムを載せ, パルテノン神殿等の大理石建造物修復例(コラム1)や, シックハウス症候群と建築基準法(コラム3), 簡易測定器(パッシブサンプラー)による計測試験例(コラム5)など, 各章の関連話題を提供しており興味を引かれる。加えて巻末には用語解説を設けているので, 環境学初心者でも平易に読みこなせる一冊となっている。

本書でも記載されているが, 日本では現在のところ, 美術館, 博物館および展示ケース内の空気質管理の統一されたガイドラインが存在しない。本書の著者らは目安となる指針を提案しているので, 是非, オーソライズして頂きたい。さらに, 空気汚染濃度をさらに精確に, 精度よく, また容易に測定出来る様, パッシブサンプラーなどの性能向上の必要性を感じる。

日本の文化財とともに, その管理方法についても欧州の学会であった友人たちに誇れるようになりたいものである。

(日立化成テクノサービス株式会社 課長 佛願 道男)